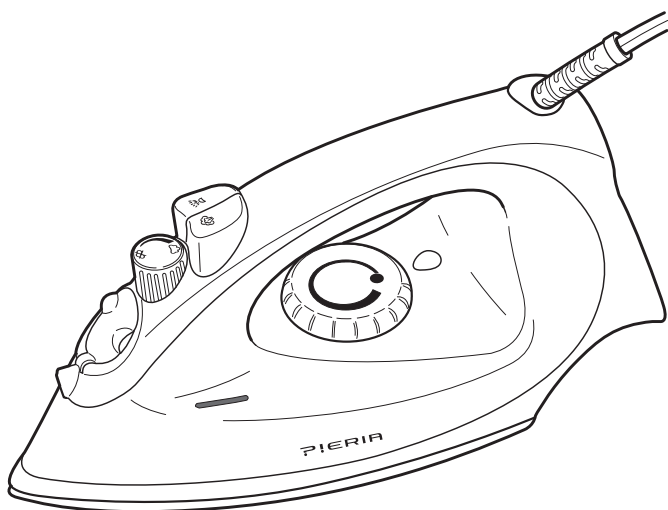


スチームアイロン DSA-1502

取扱説明書・保証書

このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。正しくご使用いただくために必ずこの取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになられたあと、もいつでも見られるように大切に保存してください。



も く じ

安全上のご注意	P 1～2
各部の名称とはたらき	P 3
ご使用の前に	P 4～5
上手な使いかた	P 6
スチームアイロンの使いかた	P 7～9
ドライアイロンの使いかた	P 10
お手入れと保存	P 11～12
修理・サービスを依頼する前に	P 13
アフターサービスについて	裏表紙
保証書	裏表紙



仕 様

型 名	DSA-1502
電 源	AC100V 50/60Hz
定格消費電力	1000 W
蒸気発生方式	滴下式
種 類	スチーム／ドライ兼用
水タンク容量	約 140 ml
安全装置	温度ヒューズ (240°C)
電源コード長さ	約 1.5 m
外形寸法	約 長さ 25 × 幅 10.5 × 高さ 13 cm
質 量	約 0.62 kg
付 属 品	計量カップ



- 仕様などは改善・改良のため、予告なく変更することがあります。
- この製品を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。
(This unit can not be used in foreign countries as designed for Japan only.)

安全上のご注意






- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保存してください。

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペット等にかかわる拡大損害を示します。)




図記号の意味と例

	⊘は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は、「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。(左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示します。)

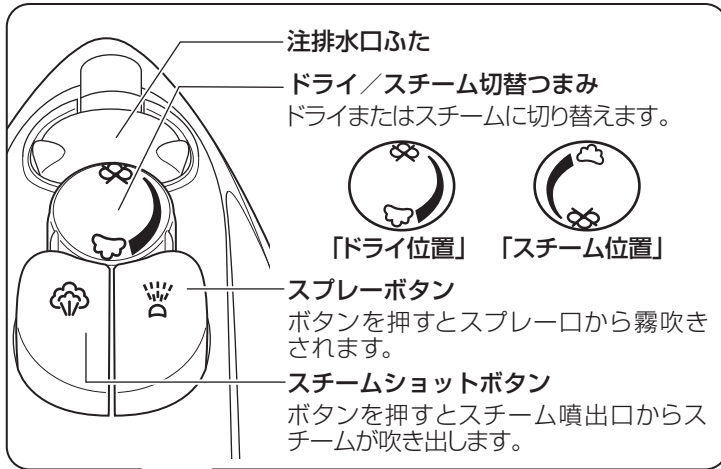
警告

 禁止	電源は交流 100 V以外で使用しない。 火災・感電の原因になります。	 指示	定格 15A 以上の壁コンセントを単独で使う。 ほかの器具と併用すると分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、重いものを乗せたり、挟み込んだりしない。 電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。		電源プラグの刃および刃の取り付け面にホコリが付着している場合はふきとる。 ホコリが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート・火災の原因になります。
	電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 感電・ショート・発火の原因になります。	 プラグを抜く	使用後は必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。 絶縁劣化による感電・漏電・火災の原因になります。
	子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使わない。 けが・やけど・感電の原因になります。		お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電・火災・けがの原因になります。
	本体のすき間にピンや針金などの金属類など異物を入れない。 感電や異常動作をしてけがの原因になります。	 分解禁止	分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 火災・感電・けがの原因になります。修理はお買い上げの販売店にご相談ください。
	本体に損傷箇所があるとき、本体から水漏れが確認できるときは、使用しない。 けがや感電の原因になります。	 ぬれ手禁止	ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因になります。
	アイロンの近くで可燃性ガス（ベンジンなど）が発生するものを使わない。 火災・故障の原因になります。	 水ぬれ禁止	本体を水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。 ショート・感電の原因になります。
 指示	異常時（こげ臭い、発煙など）は電源プラグを抜き、使用を停止する。 火災・感電の原因になります。		
	電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。 感電・ショート・発火の原因になります。		

⚠ 注意

 禁止	スチームショットの蒸気を手やひざ、身体にかけない。また、着用したままの衣類にかけない。 やけどの原因になります。	 接触禁止	使用中や使用後すぐは高温部（かけ面、スチーム噴出口）に手を触れない。 やけどの原因になります。
	アイロンを傾けたり、前後に激しく動かさない。 湯滴が出て、やけどの原因になります。	 指示	電源プラグを抜くときは電源コードを持たずに必ず電源プラグをもって引き抜く。 感電・ショート・電源コードの断線の原因になります。
	スチームショットボタンを連続して早く操作しない。 5 秒間隔より早く操作すると湯滴が出て、やけどや衣類を汚す原因になります。		注水は計量カップを使って、水をこぼさないようにする。 感電・故障の原因になります。
	絵表示より高い温度に合わせて、アイロンをかけない。 布地を傷める原因になります。		使用していないときは、必ず立てて置く。 変形や傷の原因になります。
	不安定な場所や熱に弱い敷物の上で使わない。 けがや火災の原因になります。		ボタン、ファスナーなどの固いものにはアイロンをかけない。 かけ面コーティングを傷める原因になります。
	使用后、電源コードを本体に巻き付けない。 コードが破損し、火災・感電の原因になります。		水道水以外の液体を入れない。 故障の原因になります。
	アイロンのそばを離れるときは通電したままにしない。 温度調節つまみを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因になります。		湿った衣類（霧吹きした衣類）はドライアイロンかけをする。 スチームでアイロンかけをすると、湯滴が出てやけどの原因になります。
	注水するときは、ドライ／スチーム切替つまみを「ドライ位置」に合わせる。 「スチーム位置」で水を注ぐと、湯滴が漏れ、やけどの原因になります。		

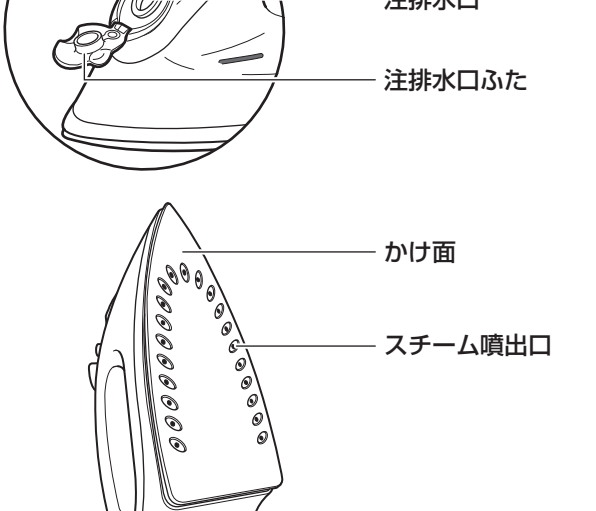
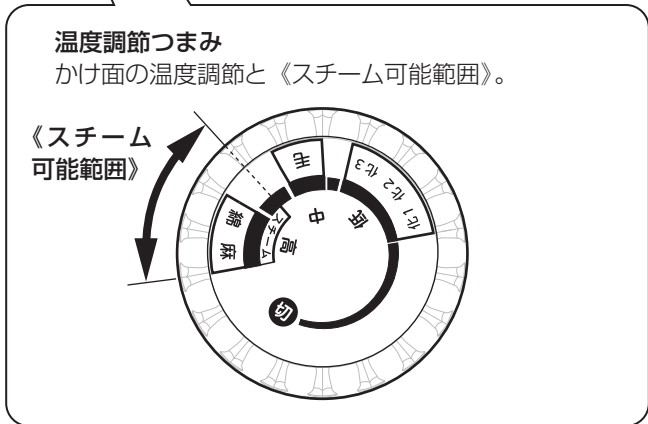
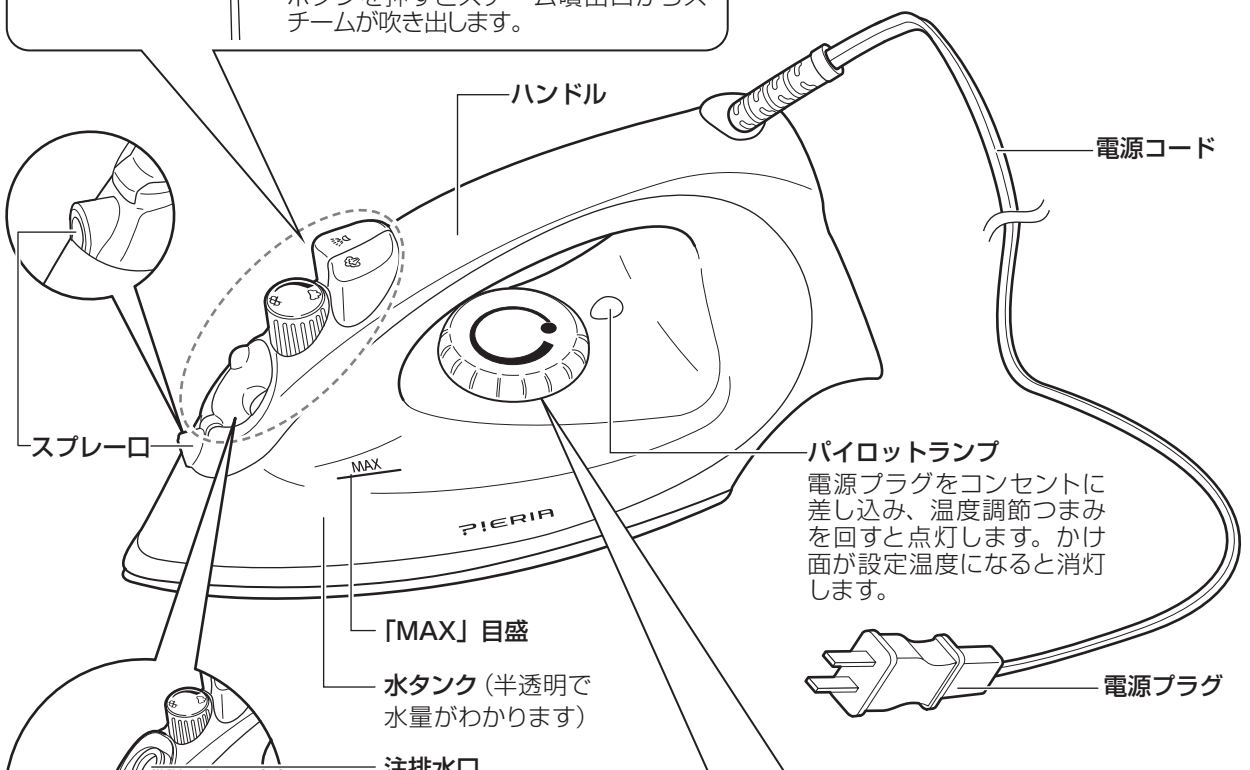
各部の名称とはたらき



付属品



計量カップ
(MAX100ml)



ご使用の前に

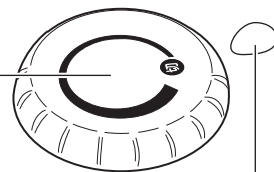
注意

- かけ面は通電するとすぐに熱くなり、電源プラグをコンセントから抜いたあと、冷めるまでに時間がかかります。使用中や使用後しばらくは、高温部（かけ面）に触れないでください。
- 本体を放置したり、目を離したりしないでください。手を放すときは本体が倒れたり落ちたりしない安定した状態であることを確認してください。
- 衣類以外のものにアイロンをかけたり、熱に弱いものの上で使用しないでください。
- 初めてお使いになるとき、こげくさいにおいがすることがありますが、異常ではありません。
- 「シュー、シュー」と音がすることがありますが、異常ではありません。使用後やスチームを使用しないときは、ドライ/スチーム切替つまみを「ドライ位置」に合わせてください。
- 低温・中温の布地および熱に弱い布地の場合は、初めに目立たない部分に試しかけをしてください。必要に応じて、「当て布」を使用してください。
- 洗濯した衣類に洗剤が残ったままアイロンをかけると、衣類が茶色になることがあります。衣類をよくすすいで、乾かしてからアイロンをかけてください。
- スチーム使用時に白い粉が出る場合がありますが、水あか（水に含まれる鉱物質など）が出るもので、異常ではありません。ご使用の前に、不要な布で試してからお使いください。
- スプレーのりを使用するときは、必ずドライモードを使用し、毎回かけ面のお手入れをしてください。スプレーのりは洗濯物を十分に乾かしてから使用してください。アップリケなどののりの付くものについては、必ず当て布をしてかけるようにください。

温度調節つまみ

電源プラグを抜き差しするときは、必ず温度調節つまみを「切」の位置に合わせてから行なってください。

温度調節つまみ



パイロットランプ

ドライ/スチーム切替つまみ

ドライアイロンとして使用する

• ドライ/スチーム切替つまみを「ドライ位置」にするとドライアイロンとして機能します。スチーム用の水の注排水は、この位置で行なってください。

スチームアイロンとして使用する

• ドライ/スチーム切替つまみを「スチーム位置」にするとスチームアイロンとして機能します。

※ 温度調節つまみを《スチーム可能範囲》に合わせて使用します。

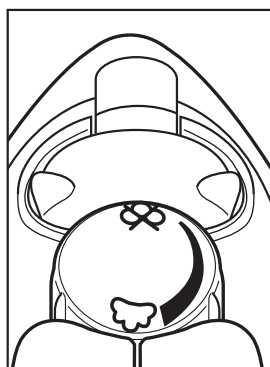
スチームショットボタン

• スチームショットボタンを押すと、水タンクの水が、かけ面にあるスチーム噴出口よりスチームとなって出ます。

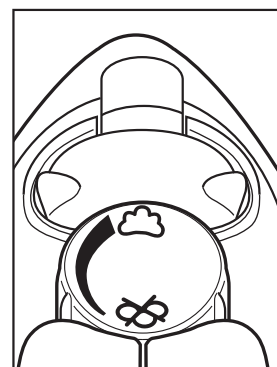
※ 温度調節つまみを《スチーム可能範囲》に合わせて使用します。

スプレーボタン

• スプレーボタンを押すと、水タンクの水が本体先端にあるスプレー口よりスプレーされます。

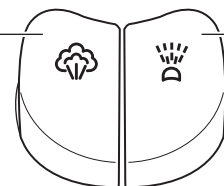


「ドライ位置」



「スチーム位置」

スチームショットボタン



スプレーボタン

ご使用の前に（つづき）

アイロンの設定温度を確認する

アイロンをおかけになる布地に日本工業規格「JIS」で定められた絵表示があるときは、絵表示に従って、アイロンの温度調節つまみを合わせてください。

絵表示がないときは、繊維名に従って、アイロンの温度調節つまみを合わせてください。

※混紡の場合は、低い方の繊維の温度に合わせてください。

※布地の上でアイロンを止めたり、極端にゆっくり動かすと、布地に合った温度でも布地を傷めることがあります。ご注意ください。





※使い始めはパイロットランプが消えてから設定した温度に安定するまで約2分間かかります。それより早くアイロンがけをすると、布地を傷める原因になります。

●アイロンの絵表示

家庭用品品質表示法に基づく繊維製品品質表示規程が改正され、2016（平成28）年12月から、衣類等の繊維製品の洗濯絵表示が、新しいJIS L 0001にならったものに変更されました。

- ・絵表示の中の点（1～3個）が上限温度を意味します（1個110℃、2個150℃、3個200℃）。
- ・あて布をしてアイロンをかける、裏からアイロンをかける表示についての規程がなくなりました。そのため任意表示となり、記号の近くに用語や文章で表示されます。




絵表示と温度の関係

アイロンの絵表示				
温度設定位置		低	中	高
記号の意味（かけ面の温度）	アイロン仕上げ禁止	底面温度110℃を限度としてアイロン仕上げができる	底面温度150℃を限度としてアイロン仕上げができる	底面温度200℃を限度としてアイロン仕上げができる
設定温度になるまでの時間		約2分		




※衣類などの洗濯表示全般についても変更されています。詳しくは消費者庁ホームページなどをご覧ください。

2016年11月以前の表示

絵表示の見かた

	線は、指示温度で当て布をする意味です
	指示温度で布地の裏からかける意味です
	アイロンがけはできません
そのほか、「スチーム禁止」などの表示があれば、その表示の指示に従ってください。	

絵表示と温度の関係

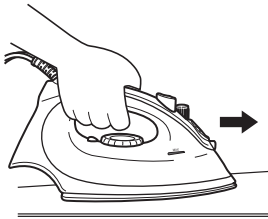
アイロンの絵表示			
布類・布地の種類	化1 アクリル系ポリプロピレン	絹・毛・ナイロン ビニロン・レーヨン キュプラ・アセテート ポリエステル ポリノジック	綿 麻
	化2 アクリルポリウレタン		
	化3 ナイロンレーヨン		
温度設定位置	低	中	高
かけ面の温度	約100℃	約150℃	約200℃
設定温度になるまでの時間	約2分		

上手な使いかた

アイロンかけの基本

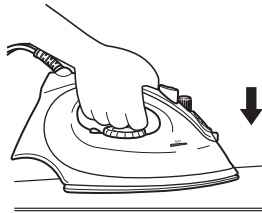
● 軽くすべらす

戻りジワを防ぐために、一方向に軽くかけるのがコツです。



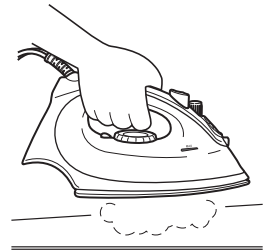
● しっかり押さえる

頑固なシワ、厚手の布地の折り目付けなどは、しっかり押さえるのがコツです。



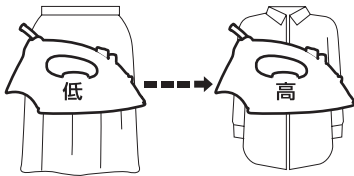
● 軽く浮かせる

ひざの丸味とり、裾や袖口の仕上げは、アイロンを軽く浮かせて、スチームを当てます。



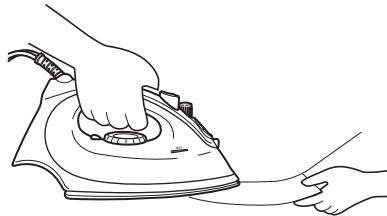
■ 「低」の布地を先にかけ、「中」と「高」の布地を後からかける

高い温度から低い温度へ切り替えても、すぐに温度が下がらず、布地をいためる原因になります。



■ アイロンかけの前に、布地の端や目立たない部分で試しがけをする

襟の裏、布地の裏などに試しがけをして、布地がいたまないうことを確認してください。



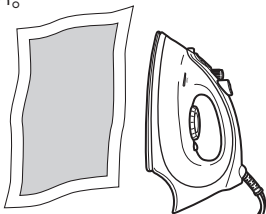
■ ボタンまわりは、かけ面の先端を使う

かけ面の先端を、ボタンの下にすべりこませるようにしてかけると、きれいに仕上がります。



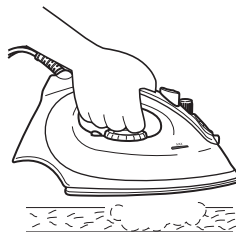
■ ハンカチなど、小さいものは、余熱でかける

電源を切った後の余熱を有効にご利用ください。また、ドライ/スチーム切替つまみは、「ドライ位置」に合わせてください。



■ 毛足の長い繊維は、浮かしかけ

アイロンを軽く浮かせて、スチームを当てます。シミ抜きも同じように浮かしかけをします。



■ 適切な温度と湿り気で

アイロンかけするものをできるだけまとめて効率よくおかけください。サッと仕上げるのがコツです。



パイロットランプ

※ 5 ページの表を参考にし布地に合わせて適切な温度調節つまみの目盛りをパイロットランプに合わせます。

■ スプレーのりの使いかた

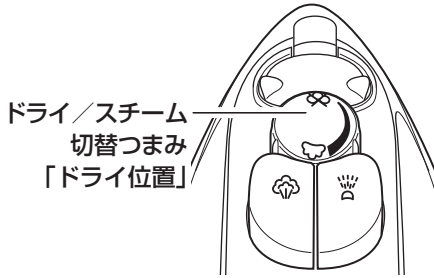
- ・洗濯物がよく乾いてから、お使いください。
- ・アイロンは、繊維の適温で、ドライにして使用します。
- ・一度に多量のスプレーのりをかけると、こげつきの原因になります。
- ・少し固めに仕上げたいときは、スプレーのり→アイロンかけ（ドライ）を繰り返します。
- ・スプレーのりを使用した後は、かけ面が十分に冷めてから、かけ面をぬれた布で拭いてください。

スチームアイロンの使いかた

① 注水（水タンクに水を注ぐ）

※ 電源プラグがコンセントから抜けていることを確認してください。

1. ドライ／スチーム切替つまみを「ドライ位置」にする



注意 注水するときは、ドライ／スチーム切替つまみを「ドライ位置」に合わせる。「スチーム位置」で水を注ぐと、湯滴が漏れ、やけどの原因になります。

2. 計量カップに水を注ぎ、注排水口のふたを開けて、計量カップから水を注排水口に注ぐ



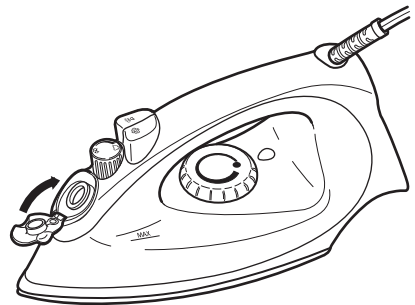
本体の注排水口に計量カップの注ぎ口を当ててゆっくり注いでください。

・水タンク容量は 140ml です。



注意 注水するときは必ず計量カップから注水する。上水道蛇口から、直接注排水口に水を注がないでください。故障の原因となります。

- ・にごった水などを使用すると、水ア力がたまりやすくなります。上水道の水をご使用ください。また、ミネラルウォーター、アルカリイオン水などは使用しないでください。
- ・注水するとき、水タンクに入る様子を確認して水をこぼさないようにしてください。
- ・水がこぼれたときは、必ず布でふき取ってください。
- ・「MAX」目盛（140ml）以上に、水を入れないでください（「MAX」目盛は本体を水平な場所に置いたときの目安です）。



・使用中、結露して水タンク内に水滴がつくことがありますが、問題ありません（使用後はドライ／スチーム切替つまみを「ドライ位置」に合わせて、注排水口ふたをあけて排水し、乾燥させてください）

3. 注排水口ふたを閉める

- ・注排水口ふたは、水がこぼれないように、正しく閉めてください。
- ・水がまわりに付いている場合は、ふき取っておいてください。

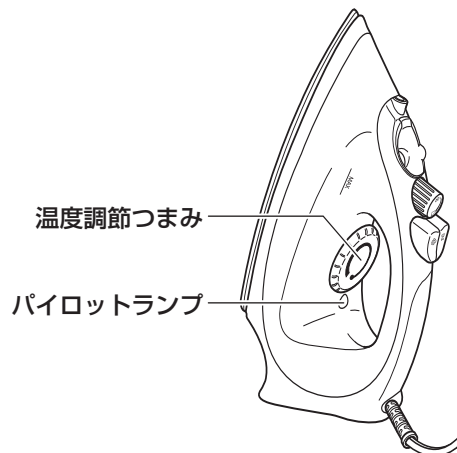
② 温度調節

1. 温度調節つまみを「切」に合わせる

2. 電源プラグをコンセントに差し込む

3. 本体を立てて、温度調節つまみを《スチーム可能範囲》に合わせる

・スチームアイロンとして使用するときは、繊維の種類に関係なく、必ず温度調節つまみを《スチーム可能範囲》に合わせてください。



- パイロットランプ点灯中、または《スチーム可能範囲》より低い目盛りで、ドライ/スチーム切替つまみを「スチーム位置」に合わせないでください。かけ面のスチーム噴出口から湯滴が出ることがあります。

注意	注水するときは、ドライ/スチーム切替つまみを「ドライ位置」に合わせる。「スチーム位置」で水を注ぐと、湯滴が漏れ、やけどの原因になります。
-----------	--

- 使いはじめににおいがすることがありますが、異常ではありません。

4. 設定した温度になると、パイロットランプが消灯する

3 アイロンをかける

1. パイロットランプが消灯したら、本体が水平になるようにハンドルを持ち上げ、ドライ/スチーム切替つまみを「スチーム位置」に合わせる

しばらくすると、スチーム噴出口からスチームが出ます。

- 本体を立てて置くと、切替つまみがスチーム位置でもスチームは止まります。
- 本体を逆さにしないでください。水がこぼれて、感電や故障の原因になります。

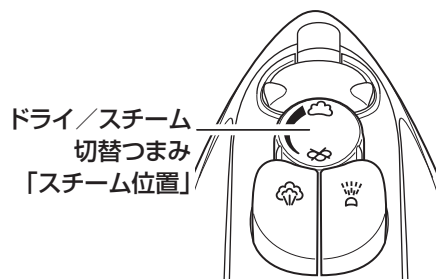
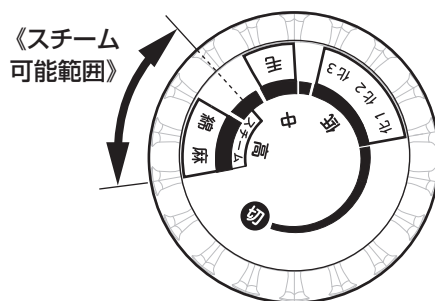
2. 【スプレー機能】 本体を水平にしてスプレーボタンを押して本体先端のスプレー口からスプレーする

スプレーボタンは、ドライ/スチーム切替つまみに関係なく、また設定温度に関係なく使用することができます。

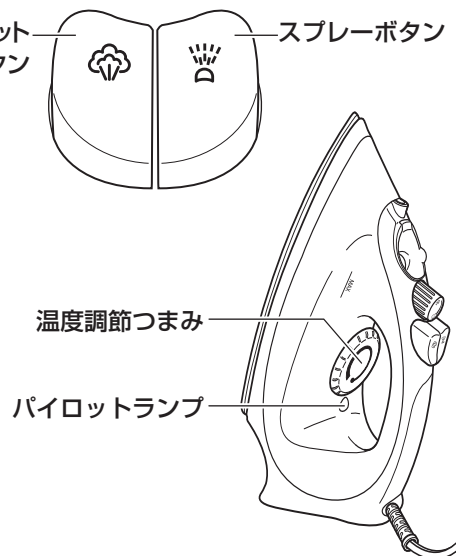
3. 温度が低くなってパイロットランプが点灯したとき、ドライ/スチーム切替つまみを「ドライ位置」に合わせ、本体を立ててパイロットランプが消灯するのを待つ

温度が下がると、パイロットランプが点灯します。

- パイロットランプ点灯中は、ドライ/スチーム切替つまみを「スチーム位置」に合わせないでください。スチーム噴出口から湯滴が漏れ、やけどの原因になります。
- アイロンを立てたときに少量のスチームが出ますが、異常ではありません。アイロン内部に残っている水が蒸発するためです。



スチームショットボタン スプレーボタン



注意	アイロンのかけ面を下にして置かない。電源を切って、十分かけ面が冷めたことを確認するまで、立てて置くようにしてください。
-----------	---

スチームアイロンの使いかた（つづき）

4. 使い終わったら、温度調節つまみを「切」に合わせて、電源プラグをコンセントから抜く

- ・パイロットランプが消灯します。
- ・収納は、アイロンのかけ面が十分に冷めてから行なってください。

※ 収納前に「お手入れと保存」（11, 12 ページ）をお読みください。



警告

使用後は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、本体が十分に冷めたことを確認してから収納する。
火災ややけどの原因になります。

スチームショットボタンの使いかた

- ・温度調節つまみを《スチーム可能範囲》に合わせてください。
- ・パイロットランプが消えてから、使用してください。
- ・使いはじめにスチームショットが出にくいときは、スチームショットボタンを約5秒間隔で数回空押ししてください。
- ・約5秒間隔より早くスチームショットボタンを押すと、湯滴が出て、やけどや衣類を汚す原因になります。
- ・タンクの水が少なくなったときは、7ページ「注水（水タンクに水を注ぐ）」手順に従って水を入れてください。

ハンガーに吊したままの衣類

かけ面が、吊した衣類と平行になるように立てて（衣類から約10cm離す）、スチームショットボタンを約5秒間隔で押します。



セーターなど毛製品

シワのあるところに近づけ、衣類から約10cm離して、スチームショットボタンを約5秒間隔で押します。



注意

- ・衣類を身に付けたままスチームショットをかけない。
やけどの原因になります。必ずハンガーなどにかけて使用してください。
- ・耐熱性のあるところでスチームショットをかける。
スチームショットをかける毛製品などは、ハンガーなどにつけず、耐熱性のあるものの上でかけるようにしてください。変形・変色などの原因になります。

ドライアイロンの使いかた

1 温度調節

1. 温度調節つまみを「切」の位置に合わせ、ドライ／スチーム切替つまみを「ドライ位置」に合わせる
2. 電源プラグをコンセントに差し込む
3. 温度調節つまみを使用する布地に合った適切な温度に合わせる

パイロットランプが点灯します。

・使いはじめににおいがすることがありますが、異常ではありません。

4. 適温になると、パイロットランプが消灯する

温度設定を変えるときは、一度本体を立てて、温度調節つまみを変えてください。パイロットランプが点灯して、かけ面を設定温度まで温めます。



2 アイロンをかける

1. パイロットランプが消えたら、アイロンをかける

ドライアイロンをかけるときは、ドライ／スチーム切替つまみが「ドライ位置」になっていることを確認してください。

2. 温度が低くなってパイロットランプが点灯したときは、本体を立ててパイロットランプが消灯するのを待つ

温度が下がると、パイロットランプが点灯し、適温になると消灯します。

3. 【スプレー機能】 本体を水平にしてスプレーボタンを押して本体先端のスプレー口からスプレーする

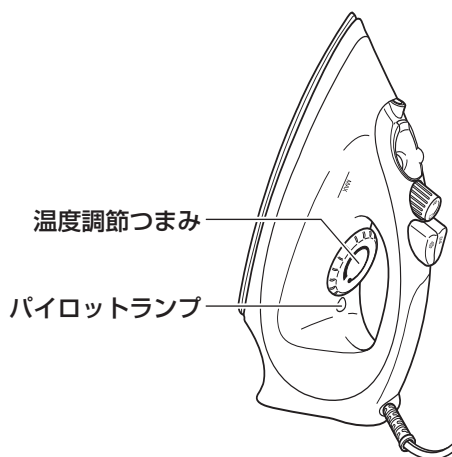
スプレーボタンは、ドライ／スチーム切替つまみに関係なく、また設定温度に関係なく使用することができます。

4. 使い終わったら、温度調節つまみを「切」に合わせて、電源プラグをコンセントから抜く

パイロットランプが消灯します。

収納は、アイロンのかけ面が十分に冷めてから行ってください。

※ 収納前に「お手入れと保存」(11、12 ページ)をお読みください。



警告

使用後は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、本体が十分に冷めたことを確認してから収納する。
火災ややけどの原因になります。

お手入れと保存



お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、本体が十分に冷めるまで待つ。
感電やけが、やけどの原因になります。

使用後のお手入れ

1. 温度調節つまみを「切」に合わせる

※ドライ／スチーム切替つまみが「ドライ位置」になっていることを確認してください。

2. コンセントから電源プラグを抜く

3. 本体が十分に冷めてから注排水口ふたを開け、タンクの水を捨て、注排水口ふたを閉める

4. かけ面が十分に冷めたことを確認してから収納する



スチーム噴出口をつまりにくくするには

スチーム噴出口をつまりにくくするには、手順3のあとに、再びコンセントを差し通電させて、温度調節つまみを「高」に合わせ、1度パイロットランプが消えるまで給電してください。

その後、手順1、2を実施したあとに本体が十分に冷めてから収納してください。

アイロン本体

- 乾いた柔らかい布でやさしくからぶきをしてください。(樹脂部分は強くこすらないでください。傷つきの原因となります。)
汚れがひどいときは、ぬるま湯か食器用中性洗剤を浸してかたくしぼった柔らかい布でふきとってください。
- 本体は水をかけて洗わないでください。感電・故障の原因になります。
- 住宅用洗剤やシンナー、ベンジン、アルコール、磨き粉などは絶対に使わないでください。故障の原因となります。

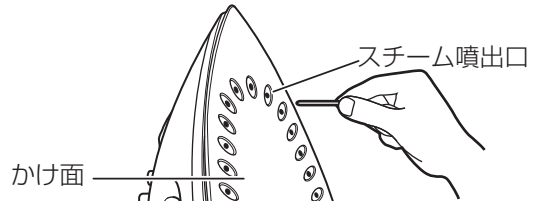
スプレーのりを使用したときのかけ面

- スプレーのりを使用したあとは、必ずかけ面をお手入れしてください。
- かけ面が十分に冷めたことを確認してから、ぬるま湯か食器用中性洗剤を浸してかたくしぼった柔らかい布でふきとってください。

- お使いになったあと、なるべく早くお手入れを行ってください。
- 住宅用洗剤やシンナー、ベンジン、アルコール、磨き粉などは絶対に使わないでください。故障の原因となります。

スチーム噴出口がつまったとき

- ようじなどを使って、スチーム噴出口を掃除してください。
- 掃除した直後は、布地を汚すことがありますので、必ず不要な布の上で数分間スチームを出してから、汚れが落ちたことを確認してお使いください。



修理・サービスを依頼する前に

⚠警告 修理技術者以外の方は分解したり修理をしない。

「故障かな？」と思ったときには次の点をお調べください。

確認するところ	症状						処置 直らないときは修理を依頼ください
	熱くならない	スチームが出ない	スチームが少ない	スチーム穴から水が漏れる	かけ面の腐食	溶ける 布地がこげたり、	
電源プラグ	●	●					コンセントに電源プラグを確実に取り付けてください
温度調節つまみ	●	●	●	●		●	目盛りの位置を確認してください
パイロットランプ		●	●	●			パイロットランプが消灯してから使用してください
ドライ／スチーム切替つまみ		●	●				ドライ／スチーム切替つまみを「スチーム位置」にしてください
				●			注水時や加熱する前に必ず「ドライ位置」にしてください
スチームショットボタン		●	●				約5秒間隔でスチームショットボタンを数回から押ししてください
スチーム噴出口		●	●		●		「お手入れと保存」(12ページ)を参考にお手入れしてください
使用後の排水					●		「使用後のお手入れ」(11ページ)を参考に必ず排水をしてください
繊維製品の絵表示						●	目盛を適温に合わせるか、あて布をしてください

長年ご使用のスチームアイロンはよく点検を

このような症状はありませんか？

- ・電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- ・電源コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- ・こげ臭い匂いがする。
- ・その他の異常・故障がある。

このような症状のときは、事故防止のため、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店またはドウシシャお客様相談室に点検をご相談ください。

MEMO

製品についての
ご相談に関しては…

ドウシシャお客様相談室

☎ **0120-104-481**

【受付時間】 9:00~17:00 (祝日以外の月~金曜日)

ドウシシャ福井家電カスタマーセンター 〒915-0801 福井県越前市家久町41-1

※ 商品名、品番をご確認のうえ、お電話をいただきますようお願いいたします。


※ お電話をいただいたときにお話いただく情報は、お客様へのアフターサービスにおいて利用させていただきますので、ご了承ください。

商品に関する Q&A

お客様サポートセンター

<http://www.doshisha.co.jp/support/faq/appliance.html>



ドウシシャのパーツ購入は **ドウシシャマルシェ** 

DOSHISHA Marché
ONLINE STORE 公式オンラインストアで

<https://www.doshisha-marche.jp/>

